

# 次世代への思いを紡ぐ対話集会

## 社会人編 (9月24日開催)



18歳～30代の社会人を対象に、「若者が活躍できる魅力あるまちとは何か？」と一緒に考えました。

参加者：発言者8人 傍聴者約20人

### 【主な意見】

- 舞鶴の魅力は「自然豊か」「魚がおいしい」「都会過ぎず田舎過ぎない」
- 新しい挑戦を応援してくれる人が多い
- 親が子に「舞鶴は何もない」と伝えているので、地元への愛着が湧かなくなってしまう
- 市との対話だけでなく、市民同士でもまちのことを話す場があれば、まちのために動き出すきっかけになる

## 高校生世代編 (12月16日開催)



高校生世代(15～18歳)を対象に「自分たちでできるまちづくり」「未来に希望がもてるまち」について一緒に考えました。

参加者：発言者10人 傍聴者約15人

### 【主な意見】

- 舞鶴の良いところは、ほどよい田舎で、海があり、近所の人などと気軽に交流ができること。悪いところは、遊ぶ場所や新しいものが少なく、公共交通の利便性が悪いところ
- まちの情報が伝わりにくいため、もっと広報してほしい
- 気軽に勉強したり交流したりできる場所があれば活用したい

# テーマ別の対話集会

## 赤れんがの保存・活用 (10月14日開催)

赤れんが倉庫群周辺の整備状況などをお伝えし、保存・活用や今後整備するエリアの活用について一緒に考えました。

参加者：発言者7人 傍聴者約30人

### 【主な意見】

- 赤れんがだけでなく市街地や海を含めた全体の構想が必要
- 子どもの創造性を育み、近代化の歩みを伝える機能が必要
- 習い事の場として活用しては
- 倉庫内に常設の美術館を設置できれば、文化的な雰囲気が生まれるのでは

## デジタル化の推進 (10月28日開催)

デジタル化により市民・行政の両方がより良い方向へ変化していく姿を想像し、あるべき姿と今できることを考えました。

参加者：発言者8人 傍聴者14人

### 【主な意見】

- 市役所での手続きには紙が多く保育所などの申請も面倒
- 回覧板をデジタル化してはどうか
- 市内に高専や近畿能開大京都校があり、KDDIやインフォニックとも関わりがあるので、ITと親和性の高いまちに
- ITへの感度が高くなれば舞鶴のブランドも向上するのでは

## 子ども・子育て (11月12日開催)

安心して子どもを産み、育てることができる環境づくりなど「子育てしやすいまち」の実現について一緒に考えました。

参加者：発言者9人 傍聴者13人

### 【主な意見】

- 親に用事がなくても、子どもを気軽に預けられるようになれば良い(みんなで子育てを支える)
- 舞鶴市の子育て支援は充実していると思う
- 出産育児一時金の一部を産後サービス限定のクーポンにすれば、より使いやすくなるのではないかと

## 地域の歴史 (10月15日開催)

歴史・文化遺産の保存・活用のあり方について「探り、学ぶ、生かす、引き継ぐ」をテーマにして一緒に考えました。

参加者：発言者15人 傍聴者13人

### 【主な意見】

- 子ども達へ地元史を伝える取り組みが学びにつながる
- 地域の歴史にどう関心を持ってもらうかが大切
- 公民館などと連携し、次世代に向けたアピールができれば
- 楽しみながら、本気で活動している姿を次世代に見せることが大切

## 身近な生活環境 (11月5日開催)

身近な生活環境の維持活動(除雪、除草、清掃など)について、市民と行政による協働や連携強化の方法、新たな担い手が活躍できる仕組み作りを一緒に考えました。

参加者：発言者6人 傍聴者8人

### 【主な意見】

- 地域活動も「楽しく」を心がけて実施するようにしている
- 除雪時に雪捨て場が無く困っている
- 企業も地域貢献しやすくするための仕組み作りが必要
- 地域活動の無償ボランティアに限界がきている。有償で考える必要がある

## 多様な性について考える (11月25日開催)

誰もが安心して暮らすために地域社会はどうあるべきか、できることは何か、さらには行政施策のあり方など、多様な性をテーマに対話を深めました。

定員：発言者8人 傍聴者12人

### 【主な意見】

- 性はグラデーション、はっきり分けられない
- 何もしないのは「平等」ではなく「放置」
- 「～らしさ」や「～であるべき」から脱却すべき(同調圧力、思い込みから解放)
- いろいろな人(生き方)があることを認めることが大切

# 対話集会 市民の声をまちづくりに



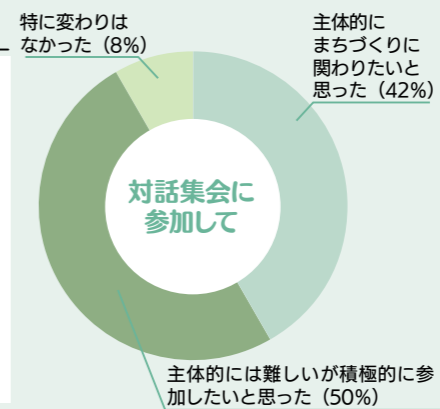
**市長と高校生ら意見交換**  
「気軽に勉強や交流ができる場があるとうれしい」。昨年12月、西駅交流センターの一室で、市内の高校に通う生徒が市長に思いを伝えました。この日は「未来に希望がもてるまち」などをテーマに、集まった高校生ら10人と市長が輪になって座り、自由に意見交換。約2時間にわたって話が弾み、参加した1人は「みんなで話し合うことで、違う目線で舞鶴を見ることができた」と笑顔を見せました。

**対話集会8回開催**  
本市では今年度、現場の声を施策のヒントにするとともに、市民にまちづくりへの関心を高めてもらおうと、市長自らが市民と意見を交換する「対話集会」を開催しました。集会は、15～18歳を対象とした「高校生世代編」のほか「赤れんがの保存・活用」や「地域の歴史」などのテーマ別に計8回実施。各回10人程度が参加し、市政への思いや、課題の解決に向けた意見が多く集まりました。

**ヒントをまちづくりに**  
今回は、参加者へのアンケート結果や、各回で集まった主な

## 参加者アンケート 感想を教えてください

- 他の人と意見交換することで、自分の考えが深まっていくのがおもしろかった
- 市長が自分の話に耳を傾けてくれ、うれしかった。一人ひとりの声がまちづくりにつながるといった意識がもっと広がってほしい
- 試行錯誤はありそうだが、対話集会を続けることが肝心だと思う。市長が進行役を務めていたので、自身の思いについても、もう少し聞きたかった



## 対話集会をヒントにした主な施策

### デジタル化を進めます

市役所では紙の手続きが多過ぎるなどの意見もヒントに、保育所のオンライン申請をはじめます。また、原則として3年以内に、市役所での手続きに関わる申請書をデジタル化します。さらに公共施設予約システムを改修し、キャッシュレス対応を可能にします

### 子育て施策を分かりやすくします

手厚い産後ケアを求める声や、サービスを利用しやすくするなどの意見もヒントに、母子保健事業を集約した「こども家庭センター」(今年4月設置)を拠点に、妊娠期から子育て期にわたり切れ目なく相談に応じる体制を強化します

### 地域の活動をサポートします

地域で行われている除草など、地域活動の負担が重く、担い手が不足しているという声や、活動を楽しみながらお互いを助け合える地域づくりをしたいという意見などをヒントに、地域活動を支援する「元気なまちづくり事業」を強化します

意見を紹介するとともに、それをヒントにした主な施策についてお知らせします。今後、市民の皆さんの声をうかがい、まちづくりを進めるとともに、市民の皆さんがまちへの関心を高められるよう、取り組みを進めていきます。  
《改革推進課》